

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-351734

(43) 公開日 平成11年(1999)12月24日

(51) Int.Cl.⁶

F 2 5 D 23/02

識別記号

3 0 5

F I

F 2 5 D 23/02

3 0 5 Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-164523

(22) 出願日 平成10年(1998)6月12日

(71) 出願人 000186843

昭和アルミニウム株式会社

大阪府堺市海山町6丁24番地

(72) 発明者 炭谷 貢

堺市海山町6丁24番地 昭和アルミニウ

ム株式会社内

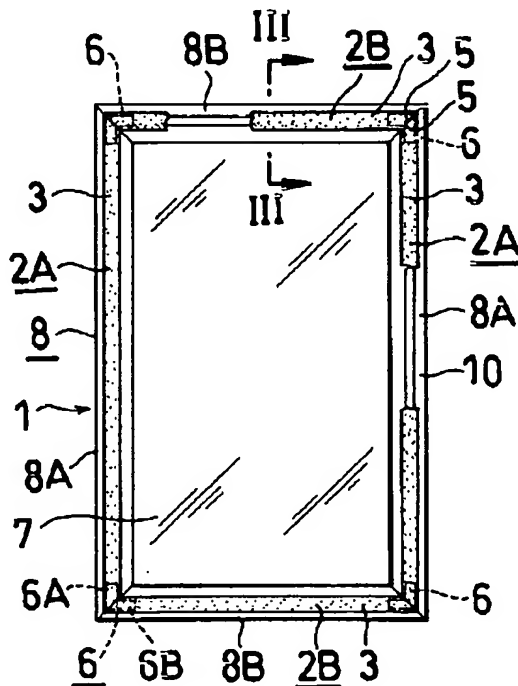
(74) 代理人 弁理士 岸本 瑛之助 (外4名)

(54) 【発明の名称】 冷蔵庫の扉

(57) 【要約】

【課題】 各コーナー部の見栄えをよくし、縦横ガasketの端部を連結する連結部材を単純な構造のものとする。

【解決手段】 方形扉周縁部10に、両端が開口した中空シール部3 および固定部4 からなりかつ斜めに切断された傾斜端面5 を両端に有する縦横各1対のガasket 2 A, 2 B が、縦横ガasketの傾斜端面5 どうしを突き合わせるようにして固定されている。縦横ガasket 2 A, 2 B の突き合わせ端部が、これらの中空シール部3 内にL形連結部材6 の縦横半体6 A, 6 B を嵌め入れることによって連結されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 方形扉周縁部に、両端が開口した中空シール部と固定部とからなりかつ斜めに切断された傾斜端面を両端に有する縦横各2つのガスケットが、縦横ガスケットの傾斜端面どうしを突き合わせるようにして固定されているとともに、縦横ガスケットの突き合わせ端部が、これらの中空シール部内にL形連結部材の縦横半体を嵌め入れることによって連結されている、冷蔵庫の扉。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、冷蔵庫の扉に関するものである。

【0002】この明細書において、「冷蔵庫」には、冷蔵庫の他に、冷蔵・冷凍庫、保冷庫等を含むものとする。

【0003】

【従来の技術】図4および図5に、従来の冷蔵庫の扉の一例が示されている。

【0004】両図に示した冷蔵庫の扉(20)は、方形扉周縁部(21)に、両端が開口した中空シール部(23)と固定部(図示略)とからなりかつ長さ方向と直交する垂直端面(24)を両端に有する縦横各2つのガスケット(22)が、縦横ガスケット(22A, 22B)の垂直端面(24)どうしが離間するように固定され、縦横ガスケット(22A, 22B)の端部が連結部材(25)によって連結されており、各連結部材(25)は、L形屈曲管状の基部(26)と、基部(26)の縦横両端部に設けられかつ縦横ガスケット(22A, 22B)の端部の中空シール部(23)内に嵌め入れられた薄肉被嵌入部(27A, 27B)とからなるものである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した従来の冷蔵庫の扉(20)の場合、各コーナー部において、連結部材(25)の基部(26)が露出しているうえ、縦横ガスケット(22A, 22B)の端部と連結部材(25)との継目が計2つ現れるため、外観上見栄えがよくなかった。また、連結部材(25)は、L形屈曲管状の基部(26)と縦横2つの薄肉被嵌入部(27A, 27B)とからなるやや複雑な構造のものであるため、製造コストが高くつき、設計どおりに寸法精度が出ないこともあった。

【0006】この発明は、上記の問題点を解決するためになされたものであって、各コーナー部の見栄えをよくし、縦横ガスケットの端部を連結する連結部材を単純な構造のものとするを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明による冷蔵庫の扉は、方形扉周縁部に、両端が開口した中空シール部と固定部とからなりかつ斜めに切断された傾斜端面を両端に有する縦横各1対のガスケットが、縦横ガスケットの傾斜端面どうしを突き合わせるようにして固定されてい

るとともに、縦横ガスケットの突き合わせ端部が、これらの中空シール部内にL形連結部材の縦横半体を嵌め入れることによって連結されているものである。

【0008】

【発明の実施の形態】次に、この発明の実施の形態を図1～図3を参照して説明する。

【0009】図1～図3に示すように、冷蔵庫の扉(1)は、方形扉周縁部(10)に、両端が開口した中空シール部(3)および固定部(4)からなりかつ斜め45度に切断された傾斜端面(5)を両端に有する縦横各1対のガスケット(2A, 2B)が、縦横ガスケット(2A, 2B)の傾斜端面(5)どうしを突き合わせるようにして固定されているとともに、縦横ガスケット(2A, 2B)の突き合わせ端部が、これらの中空シール部(3)内にL形連結部材(6)の縦横半体(6A, 6B)を嵌め入れることによって連結されているものである。

【0010】冷蔵庫の扉(1)は、例えば、図1および図3に示すように、間隔をおいて配置された2枚の金属製表面板(7)と、両表面板(7)の周縁部どうしの間に介在された合成樹脂製枠(8)と、両表面板(7)と枠(8)とで囲まれた中空部内に発泡樹脂原料を注入発泡することにより形成された断熱材(9)とを備えている。

【0011】枠(8)は、縦横各2つの枠部材(8A, 8B)で構成されている。各枠部材(8A, 8B)は、例えば、図3に示すように横断面略クランク状をなし、表面板(7)と平行な中間壁部の庫内側面に、嵌入溝(81)が形成されている。

【0012】各ガスケット(2A, 2B)は、弾性を有するEPT樹脂により全体が一体に押出成形されてなる。各ガスケット(2A, 2B)の中空シール部(3)は横断面略C形をなし、押出時に発泡させられてスポンジ状となされた相対的に軟らかいものである。固定部(4)は、中空シール部(3)の両縁に連なって設けられており、押出時に発泡させられないでソリッドのままとなされた相対的に硬いものである。各ガスケット(2A, 2B)は、その固定部(4)を各枠部材(8A, 8B)の嵌入溝(81)に嵌め入れることにより、扉周縁部(10)に固定されている。固定部(4)は、嵌入溝(81)の両側面に沿ってのびる1対の側壁(41)と、両側壁(41)の基端部どうしおよび先端部どうしを連結しかつ横断面が嵌入溝(81)底面に向かって凹弧状をなす第1および第2連結壁(42, 43)とを備えている。両側壁(41)の基端部には外向きのフランジ(44)が形成され、該フランジ(44)の先端部が中空シール部(3)の両縁に連なっている。嵌入溝(81)両側面および固定部(4)の両側壁(41)外面に、互いに噛み合うガスケット脱落防止歯(82, 45)が形成されている。

【0013】各L形連結部材(6)は、例えば軟質塩化ビニル樹脂等の合成樹脂により全体が一体に成形されたL形屈曲管状のものであって、縦横半体(6A, 6B)はそれぞれ横断面略D形をなしている。各L形連結部材(6)は、

全体が縦横ガasket(2A,2B)の中空シール部(3)内に
嵌め入れられているため、外からは全く見えない。な
お、L形連結部材(6)は、上述のようなL形屈曲管状の
ものに限らず、中実のL形屈曲棒状のものであってもよ
い。

【0014】

【発明の効果】この発明による冷蔵庫の扉は、方形扉周
縁部に、両端が開口した中空シール部および固定部から
なりかつ斜めに切断された傾斜端面を両端に有する縦横
各2つのガasketが、縦横ガasketの傾斜端面どう
しを突き合わせるようにして固定されているとともに、
縦横ガasketの突き合わせ端部が、これらの中空シー
ル部内にL形連結部材の縦横半体を嵌め入れることによ
って連結されているものであって、各コーナー部におい
て、L形連結部材が全く見えないうえ、縦横ガasket
の端部どうしの継目が1つ現れるだけであるので、外観
上見栄えがよい。また、L形連結部材は、従来技術で用
いられていた連結部材と比べて単純な構造のものである
ので、製造コストが安くつき、寸法精度を設計どおりに
出すことも容易となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明による冷蔵庫の扉の正面図である。

【図2】上記冷蔵庫の扉のコーナー部分を拡大して示す
分解図である。

【図3】図1のIII-III線に沿う断面図である。

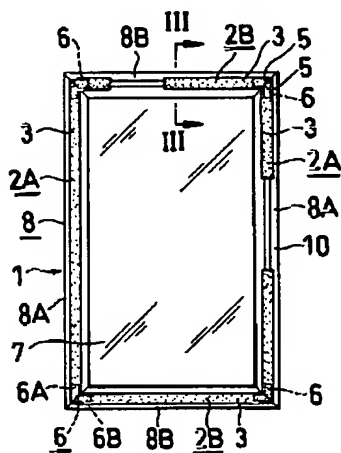
【図4】従来の冷蔵庫の扉を示す正面図である。

【図5】従来の冷蔵庫の扉のコーナー部分を拡大して示
す分解図である。

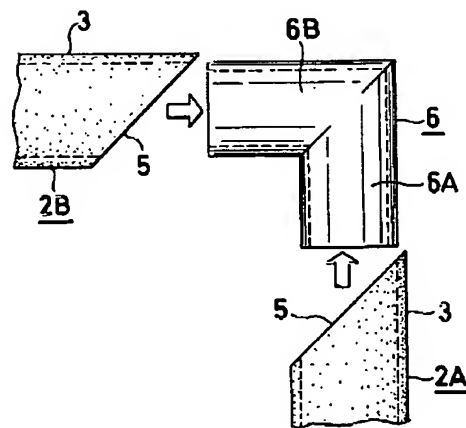
【符号の説明】

- (1) …冷蔵庫の扉
- (10) …方形扉周縁部
- (2A) …縦ガasket
- (2B) …横ガasket
- (3) …中空シール部
- (4) …固定部
- (5) …傾斜端面
- (6) …L形連結部材
- (6A) …縦半体
- (6B) …横半体

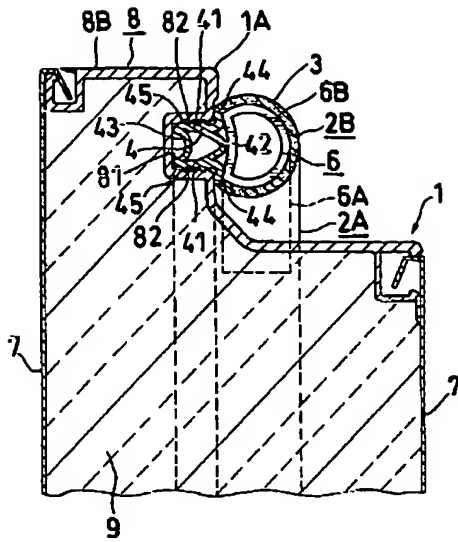
【図1】



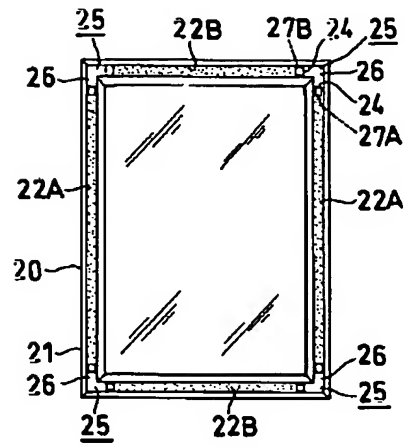
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

